

平成27年度 第1回石川県食品安全安心対策懇話会 結果概要

1 日 時：平成27年10月21日（水）午後2時00分～午後4時00分

2 場 所：石川県立大学

3 委員の出席：15名中6名

4 結 果

（1）講演・視察

- ・講演：石川県立大学の産学官連携と食品機能研究
講師：石川県立大学生物資源環境学部食品科学科教授 榎本俊樹氏
- ・視察
食品の機能性に関する研究施設及び学生実習を視察

（2）報告事項

- ①「食品表示に関する相談対応について」 食品安全対策室
- ②「食品表示の適正化に向けた取組みについて」 県民生活課
- ③「食品表示法に係る収去検査等について」 薬事衛生課
- ④「食中毒の発生状況について」 薬事衛生課
- ⑤「ソウシハギに注意」 水産課

（3）意見交換・質疑応答

【食品の機能性等について】

事務局 機能性表示食品の届出に使用する文献として認められるレベルはあるか。

講師 届出に使用する文献の選択は事業者の自己責任で、論文が沢山あればいろいろな選び方ができるが、論文が一つしかなくても消費者庁に届出をしているケースもある。

事務局 金時草の機能性食品としての効能や表示について、今後の見通しは。

講師 システマティックレビュー(※)がカギになる。例えば、大麦のβ-グルカンなどは日本中で研究され、ヒト試験のデータも多いが、金時草では誰もヒト試験をやっていない。オンリーワンの農産物である金時草では全てを自前でやる必要がある。金時草にはいろいろな機能性関与成分が含まれているが、どの成分が一番効いて、どう関与しているかということも、研究が必要。オンリーワンの農産物に関しては県等のサポートがあれば、時間的にかなり早く表示できるようになるかも知れない。

※ 文献をくまなく調査し、質の高い研究のデータをデータの偏りを限りなく除き分析を行うこと

- 座長 機能性表示食品には期待していたが、大変難しい届出が必要であり中小企業等ではなかなか難しく、進んでないと聞いている。石川県内の食品事業者から問い合わせは多いのか。
- 事務局 問い合わせはほとんど無い。制度がスタートした4月に、問い合わせが数件あり、内容を説明すると諦める事業者ばかりであった。消費者庁に直接届出であり、消費者庁も「相談があれば直接こちらに繋いでください」としている。
- 委員 機能性表示食品の届出について、消費者庁のハードルが高く、なかなか通らないという話もあり、順番待ちの食品メーカーもあると聞いている。生鮮食品の機能性について一般の方に認識してもらいたいが、うかつに表示すると表示違反になりかねない。
金時草で、血圧を下げるとは書けなくても、皆が使える様なコメントを示していただきたい。
- 委員 金時草が血圧低下に効果があるという報告があったが、実験では金時草をどの様にしてマウスに給与したのか。
- 講師 餌としての与え方は二つの方法がある。一つは餌の中に添加して、餌を摂ったときに常時その成分を摂るという方法で、もう一つは、胃の中に強制的にそれを投与する方法。或いは、餌に入れにくい試料の場合は飲み水に入れる場合もある。
金時草の場合は、生の金時草を凍結乾燥し粉末にしたものを餌に添加した。胃に強制的に入れる場合は、成分を抽出し与えた。なお、作用を見るため、与える量は人が毎日食べる量より多く、人で同じ効果がすぐ出るかは別である。
- 事務局 県産食材に関する研究について、県民へのフィードバック、研究成果の広報はどの様に行っているのか。
- 講師 一つは、講演や公開講座等の活動により研究成果を理解していただく。もう一つとして、産学官連携で色々な商品を開発し、その商品を市場に出すということも、一つの県民へのフィードバックではないかと考える。
- 委員 従来から利用されている乳酸菌を別の食品に用い、発酵食のメリットを取り入れていくことは、今の食生活には新しいスタートだと思う。若い人たちは発酵食の良さは分かっているけど、実際は摂りにくい。なれ鮭の乳酸菌を活かしたヨーグルトなど、発想の切り替えにより、石川の食材や食文化の良さを守って欲しい。

【その他】

委員 ミツバチの大量死問題により、園芸の受粉用ミツバチや採蜜する養蜂業もミツバチが不足している。大量死の原因についてお話しいただきたい。

オブザーバー 県内での大量死の有無は分からないが、世界的なミツバチの大量死は原因不明で、いくつか原因が複合的に作用していると考えられている。一つはウイルスで、もう一つは化学物質として、特にネオニコチノイド系の農薬が関係しているのではないかと。ヨーロッパでは規制が掛かっているが、日本ではほとんど規制が掛かっていない。

昨年度から、蜂蜜中のネオニコチノイドの分析を始め、実際にネオニコチノイドが検出される例があり、今年度も分析中である。大量死と直接結びつくか分からないが、ネオニコチノイドの規制の可否など、基礎的な研究が始まった段階である。

昨年の成果の一部として、ミツバチの巣箱を細工し巣箱に持ち込まれる花粉を除去すると蜂蜜中の農薬が減少するといった結果を得た。養蜂家と協力し、農薬が持ち込まれないような手段を開発していきたい。

委員 優良誤認表示について、飲食店などで1合の酒がかなり底上げされている場合に、罰金や罰則があるか。

事務局 景品表示法では、著しく優良に当たると法律違反になる。水増しの量にもよるが優良誤認に当たれば指導する。

委員 関東近辺でサンマのアニサキスが原因の食中毒が多発し、生のサンマ刺身は一切売らず、冷凍のみとなった。アニサキスは鮮度だけの問題では無いので、啓発が必要と感じる。

観光客が増え、魚や金時草などの値段が高くなっている。また、能登牛もそんなにある訳がない。産地等を偽って販売することはあってはならない。表示の問題はもう少しチェックを入れる必要があるのではないかと。

座長 アニサキスの検査は保健環境センターでやっているのか。

事務局 検査は実施していない。

座長 幸いにも石川県では、アニサキスの食中毒報告は出ていない様だが、クドアによる食中毒が出ていることに驚いた。

委員からの意見について、県も何らかの対応をしていただきたい。

委員 白山市の山麓で、産学官の連携により漢方の植樹や生産などが始まっている。白山麓の地域活性化にも結びつくということで、産学官の連携を心強く思っている。